

Tea Time

vol. **83**
2023
WINTER

無料配布

special issue

周産期部門が 100周年を迎えました！



専門看護師・認定看護師の知恵袋
認知症看護はオーダーメイド
認知症認定看護師 甲斐真沙実

ママと赤ちゃんのHAPPY BIRTH ROOM
赤ちゃんのお風呂
看護部看護師長 滋田泰子

スマイルレシピ
高野豆腐チップス
栄養課 伊東郁子

日赤医療センターの理念
わたしたちは人道・博愛の赤十字の理念に基づき
人間のいのちと健康、尊厳を守り
質の高い医療を提供します



周産期部門が 100周年を迎えました！

～写真と年表で見る100年の歴史～

当センターの周産期部門の前身である「日本赤十字社産院」は、日本赤十字社の「母と子の保護」事業として、1922年（大正11年）に開設され、100周年を迎えました。私たちは、さまざまな活動を通して赤ちゃんや、お母さんと家族を支えてきました。これまでの活動を写真や年表と併せて振り返ります。

日本赤十字社産院（以下、当院）が開設されて100周年を迎えました。1922年（大正11年）の開設当初は、産院という名称が世間ではあまり知られておらず、受診される方も少数でしたが、さまざまな宣伝を行い医療施設出産の先駆的存在として母子を支えてまいりました。

出産の医療化が急速に進行した戦後には、当院でも年間6000件を超える出産を扱いました。一方で、母親学級の開設、精神予防性無痛分娩の開始、新生児未熟児センターの開設、助産婦外来の開設、夫立ち会い分娩の開始、完全母子同室制の開始など、母子の出産を支えるための多くの取り組みも実現してまいりました。また、1972年（昭和47年）に日本赤十字社中央病院と合併し、日本赤十字社医療センターとなった際は、当時の院長である小林隆の「妊娠は病ではない」という信念の下、正常な妊産婦や新生児が入る建物「健康棟」と名付けられました。そして、2000年（平成12年）のBFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定へとつながってまいります。

2009年（平成21年）には、東京都母体救命搬送システムの創立と同時に、東京都から



副院長兼周産母子・小児センター長
宮内彰人みやうちあきひとからのあいさつ

1925

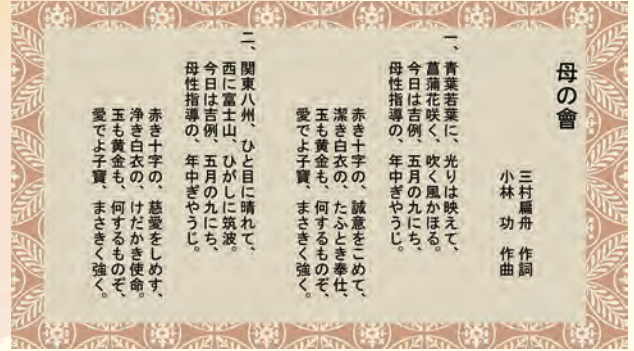
母の會

1925年(大正14年)5月9日の産院創立3周年および「乳幼児室」落成式と、翌10日の大正天皇・皇后陛下大婚25年御慶典の奉祝行事として「母の會」と銘打った行事が挙行された。ここでは日本赤十字社産院開設以降、出産した母子を招待して乳幼児の健康診査、記念品贈呈、余興などが実施された。「母の會」は1928年(昭和3年)以降、戦時中に中止となったことはあるものの産院の創立記念の行事として1970年(昭和45年)まで継承された。

「母の會」で行った乳幼児の健康診査は、現在も行われている乳幼児健診につながっている。



健康診査の様子



当時はテーマソングも作られた



母親学級でラマーズ法を行う様子



現在もオンラインで継続

マタニティクラス

(旧 母親学級)

1949

1949年(昭和24年)2月、連合国軍総司令部公衆衛生福祉部E.マチソフ女史が、東京在住の助産婦約10人を集め、日本赤十字社中央病院で日本で初めて「母親学級」のモデルクラスを開催した。このクラスに参加した助産婦がそれぞれの職場で講師となり、「母親学級」を開催することを奨励し、それが端緒となり現在では日本各地で「母親学級」が行われている。

当センターでは現在「妊娠クラス」「出産クラス」「産後クラス」「妊娠からだケアクラス」など8種類のクラスを多職種で開催しており、コロナ禍でもオンラインで継続している。

「母体救命対応総合周産期母子医療センター」に認定され、周産期部門と救命救急センターが連携し、多くの妊産婦を救命してまいりました。さらに、2010年(平成22年)には、産科・新生児科に小児科・小児外科を加え、「周産母子・小児センター」としてユニットを組み、胎児から新生児、小児と成長していく過程をシームレスに支援する体制を構築しました。現在では、BFHI(母乳育児支援)、療育医療、虐待防止、産科救急、安心母と子(周産期メンタルヘルス)の5つの多職種からなるワーキンググループが活動しており、母子の支援に努めています。

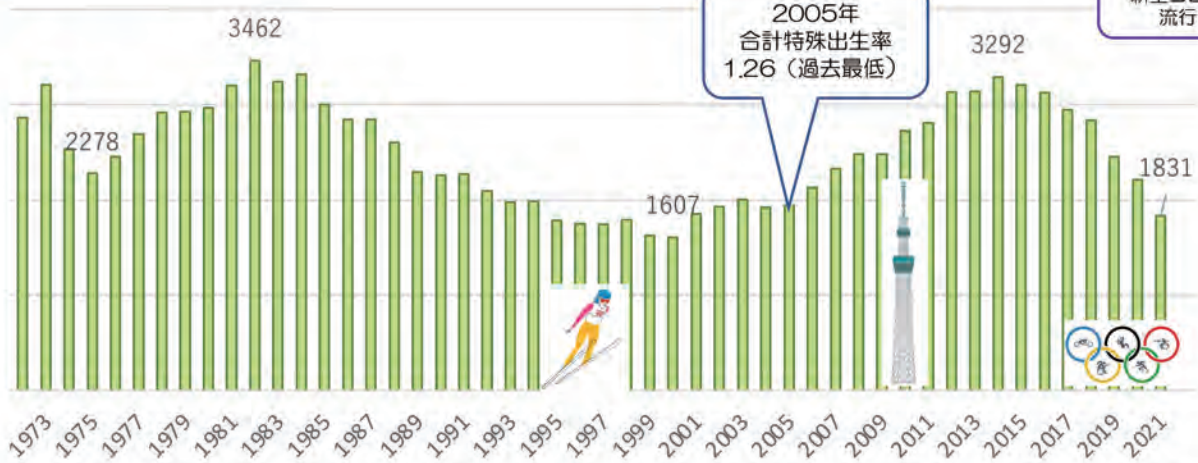
2020年(令和2年)から世界各地に広まった新型コロナウイルス感染症に対しては、病院を挙げて対応し、1300人余りの患者を受け入れ、コロナ陽性妊婦の分娩にも対応しています。コロナ陽性の場合も当センターでは一貫して、感染対策を徹底した上で陰圧の分娩室で経膈分娩を行い、32例中23例が経膈分娩となりました。助産師はこちらが心配になるくらいしっかりと産婦に寄り添っていましたが、幸いにしてスタッフの感染者は発生していません。開設以来、常に妊産婦に寄り添ってきた伝統のなせる技だと思っております。当センターのスタッフを誇りに思います。

最後になりますが、妊産婦が高年齢化し、少産・少子化が進行する中、私たちはこれからも安心して出産・育児ができる医療体制を提供し、母子を支援していけるよう努力を続けてまいりたいと思っております。今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

日赤医療センター 100年の 分娩件数・活動と世界・日本の動き

1971年-1974年
第2次
ベビーブーム

2020年-
新型コロナ
流行



- 昭和50 新生児未熟児センター開設・産科外来に母性保健室設置
- 昭和51 助産婦外来開設 新病院竣工
- 昭和55 イラン・イラク戦争
- 昭和58 夫立ち会い分娩開始
- 昭和61 日本赤十字看護大学開校
- 昭和63 母乳育児指導外来開設
- 平成4 フリースタイル分娩開始
- 平成5 母子同室開始
- 平成7 阪神・淡路大震災
- 平成10 長野オリンピック
- 平成12 「赤ちゃんにやさしい病院」認定
- 平成13 カンガルーケア開始
- 平成17 総合周産期母子医療センター認定
- 平成18 「助産師外来」を「医師と助産師のチーム健診」に変更
- 平成21 水中出産用プール完成
- 平成22 「助産師外来」を「医師と助産師のチーム健診」に変更
- 平成23 母体救命対応総合周産期母子医療センター認定
- 平成24 日本赤十字社医療センター新病院移転
- 平成28 東日本大震災
- 令和元 熊本地震
- 令和元 産後ケア入院開始
- 令和元 名称変更
- 令和3 「母乳外来」を「授乳サポート外来」へ名称変更
- 令和4 東京オリリンピック
- 令和4 日赤医療センター周産期部門100周年

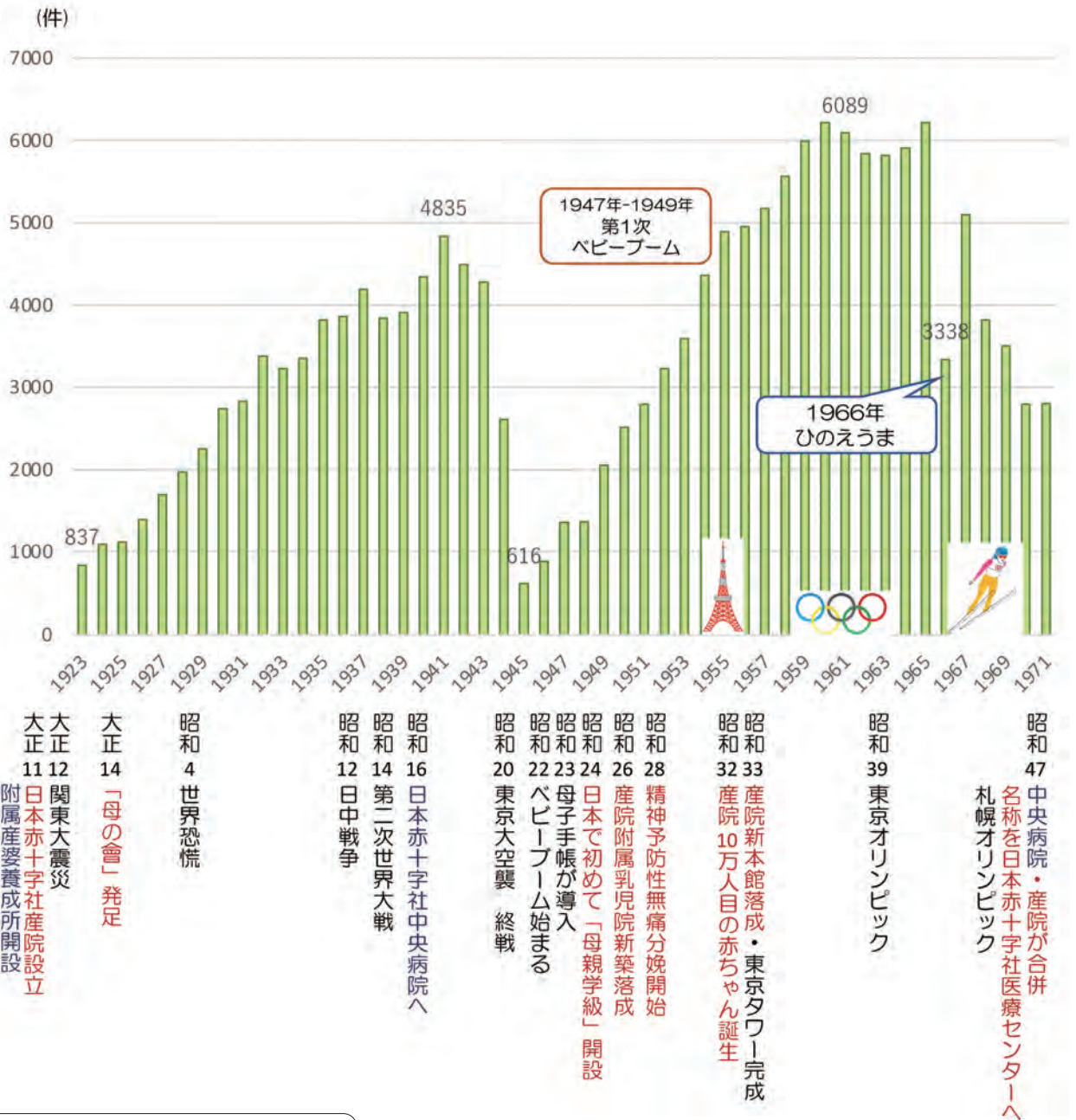
医師と助産師のチーム健診

(旧 助産婦外来)

1976年(昭和51年)、家庭での分娩に比べて医療施設での分娩が増加し、継続性のある母子保健活動、看護管理などの助産婦業務の拡大を目指して、助産婦による妊婦の健診と保健指導を行う「助産婦外来」を開設した。当初からの助産師の努力や経験を糧に2005年(平成17年)以降、経過が順調である妊娠20週以降は医師と助産師が交互に妊婦健診を担当する「チーム健診」を行っている。助産師チームは、これまでの経験を生かしながら医師と協働して、妊産婦の心と体のケアに従事する体制をとり、一人一人の妊娠・出産・産後に寄り添う支援を行っている。



1976



大正 11 関東大震災
大正 12 日本赤十字社産院設立
附属産婆養成所開設

大正 14 「母の會」発足

昭和 4 世界恐慌

昭和 12 日中戦争

昭和 14 第二次世界大戦

昭和 16 日本赤十字社中央病院へ

昭和 20 東京大空襲 終戦

昭和 22 ベビーブーム始まる

昭和 23 母子手帳が導入

昭和 24 日本で初めて「母親学級」開設

昭和 26 産院附属乳児院新築落成

昭和 28 精神予防性無痛分娩開始

昭和 32 産院10万人目の赤ちゃん誕生

昭和 33 産院新本館落成・東京タワー完成

昭和 39 東京オリンピック

昭和 47 中央病院・産院が合併
名称を日本赤十字社医療センターへ
札幌オリンピック

青字：日赤医療センターのできごと
赤字：周産期部門のできごと

夫立ち会い分娩

1983年(昭和58年)に夫立ち会い分娩を開始し、^{いのち}生命の誕生をパートナーと共に迎えていただいている。

当センターでは、コロナ禍でも安全基準を設けて分娩時のパートナーの立ち会いを続け、出産後のかけがえのない親子の最初の時間を、パートナーと一緒に過ごしていただけるように対応している。



1983

1988

授乳サポート外来

(旧 母乳育児指導外来)

赤ちゃんの母乳の飲み方の確認や、人工乳の補足量、卒乳、乳房のしこりや痛み、乳腺炎など授乳に関する疑問や不安を解消してもらうために1988年(昭和63年)に「母乳育児指導外来」を開始した。

現在は、母乳だけでなく、人工乳や育児そのものなどさまざまな相談に助産師が対応し、母親の不安の解消に努めている。



2000



赤ちゃんにやさしい病院

当センターは、2000年(平成12年)8月にWHOとUNICEFが推進する「赤ちゃんにやさしい病院(BFH: Baby Friendly Hospital)」として認定を受けた。

現在、「赤ちゃんにやさしい病院」は世界で134カ国15000の施設が認定されているが、当時は2000施設ほどしかなく、日本では17番目、首都圏では初めての認定施設となった。

母体救命対応総合周産期 母子医療センター

当センターは、2009年(平成21年)の「東京都母体救命搬送システム」創設と同時に東京都から「母体救命対応総合周産期母子医療センター」(いわゆる「スーパー総合周産期センター」)の指定を受けている。

スーパー総合周産期センターとは、救命救急センターをはじめ各診療科と密接な連携をとり、緊急に母体救命処置が必要な妊産婦を必ず受け入れ、治療を行う施設のことであり、周産期医療の「最後の砦」として日夜診療に当たっている。



2009

周産期部門における救護活動

日本赤十字社産院が開設された翌年1923年(大正12年)、関東大震災に見舞われる。震災に伴い開設時から行われた巡回産婆制*を休止したこともあった。その後も日中戦争や、第二次世界大戦が終戦するまで、当院の医師や看護師は戦地での救護に従事した。

戦後においては、新潟県中越地震(2004年=平成16年)、東日本大震災(2011年=平成23年)、記憶に新しいクルーズ船における最初期の新型コロナウイルス対応(2020年=令和2年)など多くの災害に医師や、看護師、助産師を派遣している。

※巡回産婆2人と医員と共に出張診療を行う



2020

日本赤十字社医療センター 周産期部門100周年記念式典を開催



※撮影時のみ、マスクを外しています

2022年(令和4年)10月29日(土)、日本赤十字看護大学広尾ホールにて周産期部門100周年を記念した式典を執り行いました。式典には、日本赤十字社清家篤^{あつし}社長をはじめ近隣の赤十字病院院長および周産期部門長や、当センター歴代の周産期部門長などがお越しになりました。当センター院長である本間之夫や、副院長兼周産母子・小児センター長の宮内彰人からあいさつを述べた後、開設当時から現在までを振り返った動画を上映しました。また、1925年(大正14年)に発足された「母の會」のテーマソングを復刻しました。

新生児医療と産科医療の 未来展望

記念式典後には、東邦大学医学部新生児学特任教授の与田仁志^{よだひとし}先生と山王病院院長・国際医療福祉大学医学部産婦人科学教授の藤井^{ふじい}知行^{ともゆき}先生による記念講演会が開かれました。与田先生は、「新生児医療の未来展望」と題し、日本の

新生児医療の現状、新生児臨床研究ネットワークについてや、周産期医療における医療機器・技術・医薬品・周産期医療システムの進歩についてなどをお話しいただきました。また、藤井先生は、「産科医療の未来展望」と題し、周産期の現状をお話しいただいた後に、産科医師の勤務状況や、医師と助産師の協働、分娩時の超音波の活用、硬膜外麻酔分娩、出生前診断などについてお話しいただきました。



式典の様子



「新生児医療の未来展望」について話すと与田仁志先生

周産期部門の歴史を振り返る動画をぜひご覧ください





認知症看護はオーダーメイド

認知症の症状は人それぞれ

日本赤十字社医療センターには、日本看護協会が認定している専門看護師18人、認定看護師25人がおり(2022年12月現在)、それぞれの分野に特化した看護ケアを患者さんに提供しています。本連載は、私たち「専門看護師」「認定看護師」を皆さんによりいっそう知っていただくため、耳寄りな情報をリレー形式でお伝えします。



認知症認定看護師
甲斐 真沙実
Masami Kai

認知症の人というと、どんな人を想像されるでしょうか。認知症は「脳の病気や障害などさまざまな原因により認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態」を指します。認知症の症状には物忘れ、場所や人が分からないなどがありますが、原因によってその症状はさまざまです。さらに、支援者からみると対応に困るような大声を出したり、歩き回ったりする「行動・心理症状」と呼ばれる症状は、周囲の環境変化や身体具合の悪さに影響されます。

治療を受ける認知症の方への支援

認知症の人が治療を受ける際は、身体具合の悪さや入院による環境変化で認知機能にも影響が出ます。そのため普段よりも自分が置かれている状況が分からなくなったり、不安や混乱が強くみられることも多いです。認知症の人が安心して治療を受けるためには、その人が何に困っているのか、どういった声掛けやケ

アで安心してもらえるのかを知り、その人に合った支援をすることが必要です。当センターでは認知症ケアサポートチームが活動しており、認知症の人にとどのような症状があっても、何に困っているのかを丁寧に推察しながら、普段の生活の様子やどんなことで安心できるのかという情報をヒントに支援方法を考えています。同じ認知症の人でも安心できる言葉掛けや方法は違います。周囲の人が知り得るその人の「人となり」を大切に、支援方法を検討していきます。認知症の人が入院をされる際にはぜひ、普段の生活習慣や声の掛け方などについてもお伝えください。また、普段一緒に過ごしているご家族の写真やなじみのものが周囲にあることで安心して過ごすごとができるかもしれません。

認知症の予防

さまざまな野菜や果物を多種類摂取することが認知症のリスクを軽減



させる効果が期待されています。また赤ワインのアルツハイマー病のリスク軽減についても分かっています。ただし日本人における「適量」については明らかにしていませんので飲み過ぎにはご注意ください。運動療法や日々の会話、コミュニケーションも認知機能低下の予防に有効とされています。当センターでも身体状況の回復に合わせながら、折り紙やオセロなどのレクリエーションをケアに取り入れています。

認知症になっても安心して過ごせるために

認知症になると徐々に認知機能低下が進みますが、豊かな感受性は維持されることが多いといわれています。毎回「初めまして」とあいさつしてくれる方が「あなたが誰だか分からないけど、あなたがいるとなんだか安心する」とおっしゃってくれたことがありました。分からない中でも安心して過ごしてもらえようようにサポートしていきます。お困りごとの際は主治医や担当の看護師にお気軽にご相談ください。

認知症認定看護師

常勤看護師であり、主に認知症疾患の看護において認知症の医学的知識を正しく理解し、早期から人生の最終段階に至るまでの長い認知症の経過に対し、患者、家族を含めた全人的な看護が求められている。介護・福祉サービス等との連携を強化し、認知症に対する良質で安全な看護サービスの提供と高い技術と見識を有する認定看護師であることを認証する。

● 専門看護師

(CNS : Certified Nursing Specialist)
患者・家族に起きている問題を相対的に捉えて判断する力と広い視野を持ち、分野ごとの専門性を発揮しながら、施設全体や地域の看護の質の向上に努める。

● 認定看護師

(CN : Certified Nurse)
患者・家族により良い看護を提供できるよう、分野ごとの専門性を発揮しながら看護の質の向上に努める。



ママと赤ちゃんの

HAPPY BIRTH ROOM

周産期の育児支援

49

赤ちゃんのお風呂



皆さんは“赤ちゃんのお風呂”について、どのようなイメージをお持ちですか？生まれたばかりの赤ちゃんの初めての入浴といえば、やはり産湯や沐浴など、赤ちゃんをお湯につける姿を想像されるのではないのでしょうか。そもそも沐浴とは、髪や体を洗う他に、水で洗い清めるなど、日本では古くから宗教的な儀式的意味合いも含まれるのだそうです。

★ たっぷりの泡で洗うシャワー浴

生まれたばかりの赤ちゃんは免疫力が低く、細菌やウイルスなどに対する抵抗力が弱いため、約1カ月の間は大人の入浴とは別に、ベビーバスなどにお湯をためて行う沐浴が一般的です。しかしながら、最近では赤ちゃんの皮膚トラブルやアレルギーを予防する目的で、シャワー浴が積極的に取り入れられるようになりました。シャワー浴とは、沐浴のようにお湯をためた浴槽の中で赤ちゃんの体を洗うのではなく、赤ちゃんの頭や顔、体をたっぷりの石鹸せっけんの泡で包み込むようにして洗います。沐浴の場合はガーゼで赤ちゃんの体を洗いますが、シャワー浴で

は皮膚をこすらないように泡をのせた手や指で赤ちゃんの体を洗います。また、赤ちゃんの頭皮は汗腺が多く皮膚トラブルを起こしやすいため、ボディソープとは別にベビー用のシャンプーを使うこともあります。洗い流す際に、シャワーのお湯が赤ちゃんの目や鼻、耳に入ってしまうのでは？と不安を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、赤ちゃんの頭の支え方やシャワーヘッドの角度を工夫すると、上手に洗い流すことができます。赤ちゃんに声を掛けながらシャワーを流すタイミングを伝え、不思議と赤ちゃんも上手に目を閉じてくれるのです（写真①）。

★ 保湿も必ず行いましょう

シャワー浴の後にはしっかりと赤ちゃんの皮膚を保湿します。頭皮以外の全身にローションや乳液などの保湿剤をたっぷりと塗り、ベビーマッサージをします。ベビーマッサージは赤ちゃんの全身の皮膚の状態を観察する機会になるだけでなく、赤ちゃんとの貴重なスキンシップの時間にもなります（写真②）。

★ いつでもご相談を

冬の寒い時期には湯船につからせたいと思うこともあるでしょう。沐浴やシャワー浴、皮膚トラブル予防のための保湿方法など、当センターではご両親の希望に応じた丁寧なアドバイスを心掛けています。「赤ちゃんのお風呂」について分からないことがございましたら、助産師にぜひご相談ください。



写真①
泡で優しく洗いましょう



写真②
保湿も忘れずに



看護部看護師長
滋田 泰子
Yasuko Shigeta



当センターの栄養課の職員がおすすめる体にも心にも優しい、食べたら思わず笑顔になってしまうようなレシピを紹介するスマイルレシピ！

第6回は、伊東郁子管理栄養士が紹介する「高野豆腐チップス」です。

Recipe

高野豆腐チップス

たんぱく質が
非常に豊富です！

材料 (1人分)

- 高野豆腐…1枚(16g)
- だしわり醤油…小さじ1/2
(普通の醤油や、塩ひとつまみでも可)
- 青のり…小さじ1/2



作り方

- ① 高野豆腐を水で戻して包丁で3mm幅の薄切りにする。
- ② ペーパータオルで①の水気を拭き取り、クッキングシートに並べて、だしわり醤油を満遍なく振りかける。
- ③ 600wの電子レンジで5分加熱し、青のりをかけて出来上がり。

※5分加熱後、水分が残っているようであれば、追加で加熱する

※出来上がり後、1分程度常温で置くことで、よりカリッとした食感になります

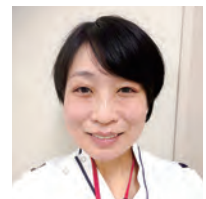
栄養成分(1人分)

エネルギー 85kcal
たんぱく質 7.8g
脂質 5g
炭水化物 1g
食塩 0.2g
カルシウム 106mg
鉄 1mg

使用する食材の効果

大豆は「畑の肉」と呼ばれていますが、高野豆腐はたんぱく質が非常に豊富です。また、高野豆腐の脂質は動脈硬化予防になる不飽和脂肪酸が含まれています。この脂肪酸は人の体内で合成できないため、食料から取る必要がある必須脂肪酸です。ミネラルとしては、カルシウムも多く含まれる健康的な食材です。

高野豆腐は煮物の料理が多い印象ですが、チップスにすることで手軽に栄養補給ができます。子どものおやつやおつまみの1品としていかがでしょうか。味はコンソメとコショウやカレー粉、和だしと七味などお好みでお試ください。



栄養課
伊東 郁子
Ikuko Ito

「ピンクリボンキャンペーン」を開催しました！

当センターでは、10月の「乳がん啓発月間」に、ピンクリボンキャンペーン（乳がん啓発活動）を開催しました。

日本人女性は、生涯において9人に1人が乳がんにかかるといわれています。乳がんは日本人女性がかかるがんでも多く、当センターにおいても、乳がんの患者数（院内がん登録数）は、各がん種のうち上位にあります。

乳がんになる人は、30代後半から増え始め、40代以上の年代に多くみられますが、乳がんは早期発見・早期治療により、90%以上の人が助かることが分かっています。

乳がんで命を落とす人を1人でも減らせるよう、ピンクリボンキャンペーンを開催し、早めの検診・治療への理解を促すとともに、「がん相談支援センター」や「こぐまチーム（がんと診断された患者さんのお子さまに関する支援を行う多職種チーム）」など、患者さんとその周りの人々を支えるスタッフの活動についても紹介しました。

外来のイベントコーナーでは、乳腺外科医師の似顔絵とメッセージを掲載したポスターの掲示や、パンフレット・パネルなどによるがん啓発に関する情報提供とともに、乳がん征圧に向けたPR活動の一環として「シールアート」の創作イベントを行いました。シールアートのイベントでは、乳がんに関する来院者・職員の意識の向上や、創作物のPR資材としての活用を目的とし、来院者に花のシールをパネルに貼ってもらうことで、大きなピンクリボンの



作品が2つ完成しました。

また、来院者を対象に、乳がんに関するアンケート調査を行いました。産科・婦人科の受診者や、小児患者の付き添い（母親）など、女性の来院者の方々から多数ご回答をいただきました。

当センターは「総合周産期母子医療センター」に指定されていることもあり、女性の受診者・利用者（小児患者の付き添いなど）が多いため、乳がんをはじめ、女性特有のがんに関心を持たれている方も多数いらっしゃいます。この点も踏まえ、当センターでは、今後、乳がんを含む女性特有のがんの診療の広報を一層推進してまいります。

また、がんだけでなく、がん以外の疾患に関する啓発イベント（セミナー・勉強会等）の開催への要望も多数いただいております。これらの点も踏まえて、患者さん・地域住民の方々に対して、医療に関する情報提供や啓発活動を今後も継続的に実施してまいります。



3月（大腸がん啓発月間）には、ブルーリボンキャンペーンを開催します！

ピンクリボンキャンペーンに続き、2023年3月には、当センターでブルーリボンキャンペーン（大腸がん啓発活動）を行う予定です。

大腸がんは、日本で一番罹患率の高いがんで、50代で急増する傾向にあります。

早期に発見できれば、ほとんど治る予後の良いがんといわれており、ブルーリボンキャンペーンを通じて、患者さん・地域住民の方々を対象に、早期の検診・治療への理解促進に向けた取り組みを推進してまいります。

ご寄付

たくさんのご寄付や応援をいただき ありがとうございます！

日本赤十字社医療センターへご寄付いただき、誠にありがとうございました。

皆さまからの貴重なご寄付は、新型コロナウイルス感染症への対応にかかる費用、医療機器・材料の購入費を含めた「病院事業運営資金」として大切に使用させていただきます。

ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

株式会社中部プラントサービス さま
神崎 憲子 さま
株式会社フォクシー さま
MSP株式会社 さま
株式会社アーキ・ピーアンドシー さま
※順不同

いつも貴重なご意見をありがとうございます

ご来院の皆さまこんにちは、ご意見箱です。
設備、接遇に関するご意見をいただきました。



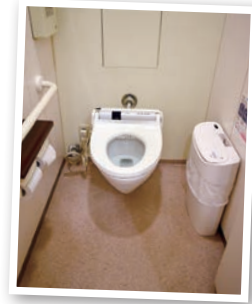
皆さまのご意見を
病院内の環境改善に
役立ててまいります！

日本赤十字社キャラクター
「ハートちゃん」

1 設備

中央採血室女性トイレ内のサンタリーボックスが扉の近くにあり、
キャリーケース持参時、出入りがしにくいです。

⇒サンタリーボックスの位置を奥へ移動しました。



以前より、出入りしやすくなっています

2 接遇

質問などがある際に、途端に怪訝な^{げん}表情をし、反応したくないという口調で冷たく対応されます。まくし立てるような言い方や、冷たい受け答えをされると残念です。

⇒外来受付職員に対して基本的な患者接遇の指導を行いました。
また、ご意見を共有し、患者さん・ご家族の皆さまが安心して来院できるように心掛けてまいります。

いただいたご意見は該当部署と情報を共有し、
検討を行い、改善につなげていきます。これからも
気になることなど、率直なご意見をお待ちしています。



ご意見箱は
院内に15カ所
あります。

(外来6カ所、入院病棟
各フロア1カ所)

診察のご案内

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日祝 |
|---|---|---|---|---|----|----|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 休診 | 休診 |

- 外来休診日 …… 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、日本赤十字社創立記念日(5月1日)

- 受付時間 ……

| | | |
|--------|--------------|------------------------|
| 予約のない方 | 初診・再診 | 8:30～11:00 |
| 予約のある方 | 初診 | 8:30(初診受付開始)～予約時間の30分前 |
| | 再診 | 7:50(再来機開始)～予約時間の20分前 |

※ 受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。
また、初診の方は必ず「かかりつけ医からの紹介状」をお持ちください。

- 診察カード …… 全科共通でご使用できます。ご来院のときは必ずお持ちください。
紛失・破損した場合は、初診受付にて再発行できます。
※再発行料：1枚220円(税込)
- 健康保険証 …… ご来院のときに確認していますのでお持ちください。
また、保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出ください。

代表 TEL：03-3400-1311

